

## 生物工学若手研究者の集い 夏のセミナー2012 顛末記

中島 一紀

本年度の生物工学若手研究者の集い(若手会)・夏のセミナーは2012年6月30～7月1日の日程で宮城県岩沼市のモンタナリゾート岩沼を会場として開催されました。前年2011年度に山梨で行われた夏のセミナーにおいて、若手会として東北地方の復興に少しでも貢献したいという意見が多く挙がり、2012年度の夏のセミナーを東北・宮城にて開催する運びとなりました。私が知る限りでは、過去15年以内で北日本(東北・北海道)での夏のセミナーの開催はなかったのですが、今回全国から一般40名、学生44名、計84名の生物工学若手研究者が宮城に集結し、2日間の有意義な時間を過ごしました。

1日目は、阿部宏之先生(山形大学)、的場亮先生(DNAチップ研究所)、五味勝也先生(東北大学)、浅見紀夫先生(一ノ蔵)にご講演いただきました。バイオ医療分野での最新のトピックスから麹菌のゲノム解析プロジェクト、おいしいお酒と税の話まで多岐にわたる内容についてお話しいただきました。また、今回のセミナーでも若手研究者・学生によるポスターセッションを企画し、43件の発表が行われました。若手会ということで、初めてポスター発表を行う学生さんも多くいたようですが、皆自分の研究テーマについて熱心に紹介し、真剣にディスカッションしていました。このポスターセッションは2009年の京都で始まり、今年でまだ4回目ですが、研究発表の場としても、研究者・学生同士の交流の場としても非常に有意義な企画だと思いますので、今後も夏のセミナーのコンテンツとして組み込んでいければと思っています。

さて、1日目の講演会とポスターセッションを終え、脳を十分に活性化させた後は、温泉で心と体をリフレッシュし、夏のセミナーのメインイベントの一つである懇親会に突入しました。本会副会長の園元謙二先生の乾杯でスタートし、普段なかなかできない大学・企業間の垣根を越えた交流が行われました。途中、東北大学、東京

大学、京都大学、名古屋大学の学生さんに魅力的かつ印象的な研究室紹介をしていただきました。ビール片手にエネルギー溢れる(?)プレゼンをしてくれた方もいて、生物工学の若手パワーは今後も色褪せることはないかと再認識しました。懇親会後も、各部屋に分かれて酒を酌み交わしながら互いに語り合う交流会が夜遅くまで続きました。

2日目は、大林武先生(東北大学)、中村龍平先生(東京大学)、山上睦先生(環境科学技術研究所)から遺伝子データベースの構築と活用法、海底に存在するエネルギー源、セシウムイオン輸送に関する最新の研究成果をお話しいただきました。

閉会式では、1日目のポスター発表の表彰を行いました。審査の結果、松沢智彦さん(九州大)、青木裕一さん(東北大)、外所瑠衣さん(東北大)、青木航さん(京大)、鈴木聡美さん(東北大)、岩崎祐樹さん(広島大)がポスター賞を受賞しました。惜しくも僅差で受賞を逃した人も多くいましたので、是非次回もエントリーしてほしいと思います。

今回、被災地である東北地方で夏のセミナーを開催するにあたり、いろいろと不安な面もありましたが、全国から多くの参加者を得て盛会の内に終えることができました。後援の日本生物工学会、北日本支部、協賛の各企業様からの多大なるご支援に深くお礼申し上げます。また、夏のセミナー実行委員として共に運営にご協力いただいた東北大学の伊野浩介先生、下山武文先生、七谷圭先生、浜本晋先生にこの場を借りてお礼申し上げます。

さて、2013年度の夏のセミナーは常夏の宮崎で開催予定です。皆さん、またお会いしましょう。

※本年度の夏のセミナーの様子を若手会ホームページで公開していますので、そちらも是非ご覧ください。

<http://www.sbj.or.jp/division/young/>

